

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和7年11月27日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	12月1日(月) 13:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー分野の展望」
2	12月2日(火) 9:55～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「第15回計算力学シンポジウム」
3	12月5日(金) 15:00～16:55	ハイブリッド (熊本大学)	九州・沖縄地区会議学術講演会「半導体が創る熊本の未来」
4	12月6日(土) 15:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「動物の安楽死を考えるII」
5	12月7日(日) 13:00～17:00	早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター	公開シンポジウム「スポーツとは何か — 科学が問いかける身体、社会が求める共生」
6	12月9日(火) 10:30～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「世界の防災の未来：災害の経験をふまえたメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」
7	12月11日(木) 13:30～18:10 12月12日(金) 9:10～15:40	金沢工業大学扇が丘キャンパス	公開シンポジウム「キャビテーションに関するシンポジウム（第22回）」
8	12月12日(金) 13:00～16:40	ハイブリッド (名古屋大学)	学術講演会「これからのモビリティと社会受容性～自動運転実用化への課題と挑戦」（中部地区会議主催：名古屋大学）
9	12月13日(土) 13:30～17:00	ハイブリッド (陸前高田市コミュニティホール)	公開シンポジウム「産官学で推進する地域創生：ブルーカーボンがもたらす可能性」
10	12月14日(日) 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための課題について考える—子どもがまんなかの社会の実現に向けて—」
11	12月18日(木) 13:30～16:45	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「環境化学物質の健康影響、その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて： 1. 環境化学物質の健康影響とは」
12	12月20日(土) 15:30～17:30	ハイブリッド (パシフィコ横浜会議センター)	共同主催国際会議市民公開講座「ゲノム情報・医療情報・生体試料の共有を巡って—展望と課題—」
13	12月21日(日) 13:00～16:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性」
14	12月21日(日) 13:00～17:00	ハイブリッド (立教大学)	公開シンポジウム「分断化する社会の中で対話は可能か——ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築」
15	12月23日(火) 13:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「地球再興を見据えた新材料デザイン」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



カーボンニュートラルに向けた 熱エネルギー分野の展望

日 時 2025年12月1日 月 13:00~17:30

場 所 日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
ハイブリッド開催

開催趣旨

日本の民生・産業部門における消費エネルギーのうち、約6割を熱需要が占めますが、その一方で一次エネルギー投入量の約6割が最終的に熱として排出されています。太陽熱、地中熱などの再生可能エネルギー熱の利用にも大きな余地を残しています。また、今年2月に閣議決定された第7次エネルギー基本計画において、蓄熱を活用した電力貯蔵システムがデイマンドリスponsの手段として初めて言及され、カーボンニュートラル実現における熱エネルギーの重要性に対する認識が広まりつつあります。

本シンポジウムでは、蓄熱・熱輸送技術を導入した熱利用ビジョン、再生可能エネルギーの大量導入時代の蓄エネルギー・変動平準化技術として注目されている蓄熱発電、未利用熱の有効利用、熱利用技術を総合して各地で取り組まれてきた地域熱供給について講演と討論を行い、カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性を示し、その重要性への理解を広く共有することを目的としています。

プログラム

- 13:00 開会挨拶
北川 尚美（日本学術会議第3部会員／東北大学教授）
- 13:10 趣旨説明
藤岡 恵子（日本学術会議特任連携会員／株式会社ファンクショナル・フレイド／芝浦機械株式会社）
- 13:25 ●講演 「カーボンニュートラル時代に向けた部門間の熱バリューチェーンの提案」
中垣 隆雄（早稲田大学教授）
- 13:55 ●講演 「岩石蓄熱およびエネルギーマネジメント技術を用いたプラント実証試験」
岩城 智香子（株式会社東芝総合研究所首席技監）
- 14:25 - 休憩 -
- 14:30 ●講演 「静岡県における地下水熱利用の普及に向けた取組」
神谷 貴文（静岡県環境衛生科学研究所班長）
- 15:00 ●講演 「廃棄物の特性に合わせた焼却熱の効率的な産業利用」
藤井 実（国立環境研究所社会システム領域システムイノベーション研究室室長）
- 15:30 ●講演 「地域エネルギーシステムの基礎となる地域冷暖房、その変遷と現状、今後の展望」
佐土原 聰（横浜国立大学名誉教授）
- 16:00 - 休憩 -
- 16:10 総合討論
モダレーター：藤岡 恵子
コメンテーター：講演者／木村誠一郎（一般社団法人離島エネルギー研究所代表理事）
- 17:20 閉会挨拶
下田 吉之（日本学術会議第三部会員／大阪大学教授）
森口 祐一（日本学術会議第三部会員／東京大学名誉教授）

参加を希望される方は、
下記QRコードより
参加申込を
お願ひいたします。



主 催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会／
日本学術会議化学委員会・総合工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会／
日本学術会議環境学委員会環境科学・環境工学分科会／循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会
共 催：公益社団法人化学工学会
後 援：公益社団法人日本化学会／一般社団法人日本機械学会／一般社団法人日本鉄鋼協会／一般社団法人触媒学会／
公益社団法人日本伝熱学会／一般社団法人日本エネルギー学会／一般社団法人エネルギー資源学会
協 賛：公益社団法人日本石油学会

日本学術会議

第15回 計算力学シンポジウム

主 催

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共 催

可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会
日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合

後 援 自動車技術会

開催趣旨 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果を、まとめて聞くことができる貴重な機会です。さらに、特別企画「防災・減災に向けてこれから計算力学」を開催いたします。日本は災害列島と呼ばれるほど様々な災害繰り返しがあります。地球温暖化の影響と思われる気象災害、東南海地震、関東直下型地震からは免れようがなく、防災、減災のために様々な取り組みがなされています。より精度の高い気象、地震、土砂、水害災害の予測が求められ、計算力学もその一翼を担い、大きな割を果たしています。様々な分野の防災、減災の最前線のご講演と今後の計算力学の発展について討論を行います。

日 時：令和7年12月2日（火）9:55～17:30

会 場：日本学術会議講堂 及び オンライン [webinar](#)（ハイブリッド開催）

申 込：事前申込不要（直接ご来場いただくか上記リンクよりご参加ください）

参加費：無料 問合せ先：tsuyoshi_ueta@jikei.ac.jp（東京慈恵会医科大学・植田毅）

次 第

各講演時間には3分程度の各学会長による講演者紹介と質疑応答を含みます

総合司会：植田 毅（東京慈恵会医科大学学術情報センター教授）

9:55-10:00 開会の辞：

坪倉 誠（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院システム情報学研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所
計算科学研究センターチームリーダー）

第I部 若手研究者による講演

10:00-10:20 講演1（日本計算力学連合）

寺原 拓哉（早稲田大学グリーン・コンピューティング・システム研究機構 次席研究員）
「弁修復術開発のための心臓弁の開閉を直接解像した心臓内血流解析」

10:20-10:40 講演2（日本応用数理学会）

石井 敦（京都大学理学研究科附属サイエンス連携探索センター 特定准教授）
「関数空間論による力学系のデータ駆動解析の理論と応用」

10:40-11:00 講演3（日本計算工学会）

西口 浩司（名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻 准教授）
「3D生成AIは構造設計をどう変えるか：「富岳」による超多ケース衝突解析に基づく潜在空間での設計探査」

11:00-11:20 講演4（日本機械学会計算力学部門）

見波 将（京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻 助教）
「能動的機械学習とハイスクープ第一原理計算によるデータ駆動型新奇材料物性探索技術の開発」

11:20-11:40 講演5（CAE懇話会）

関 大河（AGC 先端技術研究所シニアマネージャー）
「ガラス溶解プロセスにおけるデジタルツイン技術開発」

11:40-13:10 星休み

13:10-13:30 講演6（日本計算数理工学会）

松島 慶（広島大学大学院先進理工系科学研究科 助教）
「音響・弾性波動に関する数値計算と最適設計」

13:30-13:50 講演7（可視化情報学会）

村上 紗菜（お茶の水女子大学大学院博士後期課程理学専攻情報科学領域2年）
「力学モデルを用いたグラフ可視化のための最適化手法の適用」

13:50-14:10 講演8（日本シミュレーション学会）

倉橋 貴彦（長岡技術科学大学技術研究院機械系教授）
「逆解析手法に基づくコンクリート構造内の欠陥同定解析」

14:10-14:20 休憩

第II部 特別企画「防災・減災に向けてこれから計算力学」

モレータ 大石 哲（神戸大学都市安全研究センターリスク・コミュニケーション研究部門 教授）

14:20-14:50 特別講演1 沢田 雅洋（気象庁情報基盤部数値予報課数値予報モデル基盤技術開発室線状降水帯予測技術開発官）
「線状降水帯に関するシミュレーション」

14:50-15:20 特別講演2 溝口 敦子（名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）
「河川で起こる現象を知り、災害に備える～計算力学への期待～」

15:20-15:50 特別講演3 松澤 孝紀（防災科学技術研究所巨大地変災害研究領域地震津波複合災害研究部門 主任研究員）
「大地震とスロー地震発生の数値シミュレーション—南海トラフ・関東地域への適用—」

15:50-16:20 特別講演4 大石 裕介（富士通研究所リサーチディレクター）
「防災DXに向けたシミュレーションとAIの活用」

16:25-17:25 総合討論

パネリスト：第II部特別講演者4名および、高橋 桂子（日本学術会議連携会員、早稲田大学ナノ・ライフ創成研究機構規範科学
総合研究所上級研究員／研究院教授）

17:25-17:30 閉会の辞

越塚 誠一（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

学術講演会

ハイブリッド開催



半導体が創る 熊本の未来

近年、半導体産業は、私たちの生活だけでなく社会全体を大きく変える力を持っています。特に熊本県では、TSMCの進出を筆頭に半導体関連企業の集積が急速に進んでおり、地域経済、教育、文化、そして学術研究にも計り知れない影響をもたらそうとしています。

本講演会では、熊本大学がこの大きな変革の中でどのような学術振興を推進し、地域と共に未来を創造していくのかに焦点を当てます。半導体が切り開く新たな可能性を理解し、熊本の持続可能な未来を築くための議論の場を提供いたします。

主催:日本学術会議九州・沖縄地区会議
共催:熊本大学
後援:熊本県、熊本市

令和7年

12月5日 金
15:00～16:55

参加無料

どなたでも
ご参加できます

参加申込み

※対面・オンライン共通

締切日: 令和7年11月25日(火)17:00

<https://forms.office.com/r/bYfFr3RenZ>



現地会場

熊本大学 工学部百周年記念館
熊本市中央区黒髪2-39-1



お問い合わせ先

熊本大学 研究・社会連携部 研究推進課 総務企画担当
TEL. 096-342-3146, 3242

Program

司会:西山 忠男

(日本学術会議連携会員、熊本大学大学院先端科学研究所名誉教授、ダイバーシティ推進室特定事業教員)

15:00～15:10 開会挨拶

日比谷 潤子 (日本学術会議副会長・第一部会員、国際基督教大学名誉教授)

小川 久雄 (熊本大学長)

15:10～16:50 講演

1. 大手半導体ファブの熊本進出による影響と 我が国が目指すべき方向(私論)

平井 寿敏 (熊本県産業技術センター所長)

2. 熊本地域における新規半導体産業創出のための 三次元積層実装向けシステム設計評価技術

大川 猛 (熊本大学半導体・デジタル研究教育機構教授)

3. 熊本地域の半導体産業を支える地下水資源

細野 高啓 (熊本大学大学院先端科学研究所教授)

16:50～16:55 閉会挨拶

内田 誠一 (日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学大学院システム情報科学研究院教授)

動物の安楽死を考えるII

日時 2025年12月6日
15:00-17:00
場所 Zoomウェビナー

登録はこちら(無料)
(参加URLが自動送信されます)



<司会>
木村 享史(北海道大学 教授)

15:00 開会の挨拶
堀 正敏(日本学術会議第二部会員/
東京大学 教授)

15:05 「動物の安楽死の動向」
田中 亜紀(日本獣医生命科学大学
特任教授)

15:15 「伴侶動物の安楽死」
遠山 潤(新潟県動物愛護センター
技術専門員)

15:35 「動物の安楽死と法」
諸坂 佐利(神奈川 教授)

15:55 「展示動物の安楽死」
松本 直也(札幌市円山動物園
動物専門員)

16:15 「WOAHの動物福祉に関する
取り組みの現状」
釘田 博文(国際獣疫事務局(WOAH)
アジア太平洋地域代表)

16:35 総合討論
<モデレーター>
高橋 真吾(東京都保健医療局
健康安全部健康安全調整担当課長)
<パネリスト>
登壇者

17:00 閉会の挨拶
石塚 真由美(日本学術会議連携会員
/北海道大学 教授)



スポーツとは何か 科学が問い合わせる身体、社会が求める共生



開会挨拶 山口 香(会員・筑波大学) 第二部「見えない境界を越えるス
ポーツ:多様なひとたちと共に生き
る機会の創造」

第一部「身体に介入する科学とスキー ツ:ドーピングとゲノム情報の視点から 考える」

来田 享子(連携会員/中京大学)

竹村 瑞穂(東洋大学)

三宅 秀彦(連携会員・お茶の水女子大学)

石井 哲也(連携会員・北海道大学)

建石 真公子(連携会員・法政大学)

朝田 芳信(連携会員/鶴見大学)

藤原 清香(東京大学)

広瀬 統一(連携会員/早稲田大学)

堀川 直希(のぞえの丘病院)

総合討論司会・閉会挨拶 宮地元彦
(連携会員/早稲田大学)

- ・開催方法=対面とZoomウェビナー併用のハイブリッド開催
- ・日時=令和7(2025)年12月7日(日)13:00 ~ 17:00
- ・開催地=早稲田大学121号館地下1階コマツ100周年記念ホール
- ・住所=東京都新宿区早稲田鶴巻町513
- ・対象=どなたでも参加いただけます
- ・定員=150名、オンライン300名
- ・参加登録=右のQRコードからご登録ください
- ・問合先=mariko.nakamura@jpnspor.go.jp





日本学術会議主催学術フォーラム

世界の防災の未来

— 災害の経験をふまえたメガシティの

防災力強化に向けた

科学技術イノベーション —

日本学術会議では、2025年に発出を予定している提言
「壞滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に
向けた科学技術イノベーション」について考える場を創出し、
対応、効果的な情報伝達に不可欠な制度、そして広域的・
国際的な連携などについて国内外の専門家が議論します。
さらに、関東大震災、阪神・淡路大震災、能登半島地震への対応は防災体制や制度設計の見直し、科学技術
の活用に関して、今後の都市防災に多くの示唆を与えるもの
であり、実践的知見の共有を通じて議論を深めます。
将来の防災を担う研究者や実務者及び著名な専門家を、
知見の交流と協働を促進します。

会場

日本学術会議講堂
(東京都港区六本木7-22-34)

ハイブリッド開催 (YouTube Live配信(日・英))
同時通訳あり 参加費無料

プログラム

- 10:30-10:45 開会挨拶、趣旨説明
10:45-12:00 セッション1
災害事例に基づく最新の教訓
13:00-14:35 セッション2
壞滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化
14:50-16:45 セッション3
世界の防災の未来に向けて（講演+パネルセッション）
16:45-17:00 議長声明

各セッションの登壇者は、日本学術会議のホームページ上に、おって公表いたします。
プログラムは変更になる可能性があります。

コーディネーター

- 竹内 徹（日本学術会議第三部会員／東京科学大学 名誉教授）
寶 鑑（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長／
京都大学 名誉教授）
田村 圭子（日本学術会議第三部会員／新潟大学 危機管理本部危機管理センター 教授）

申込み

事前申し込みは下記 URL または QR コードから
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0346.html>

申込み締切 12月3日(水) 事前参加登録へのご協力をお願いいたします。



主 催 日本学術会議



共 催 防災減災連携研究ハブ (JHoP)

JHoP

防災減災連携研究ハブ

国立研究開発法人 防災科学技術研究所 (NIED)



後 援 防災学術連携体 日本建築学会 土木学会

日本地震工学会 地域安全学会

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL : 03-3403-6295

令和7年

12月9日

10:30~17:00

Cavitation Symposium

キャビテーション に関する シンポジウム (第22回)

開催日 2025年12月11日(木), 12日(金)
会 場 金沢工業大学 扇が丘キャンパス
主 催 日本学術会議 第三部
第22回キャビテーションに関するシンポジウム実行委員会
共 催 金沢工業大学 医工融合技術研究所,
日本機械学会, 日本船舶海洋工学会,
土木学会, 農業農村工学会, ターボ機械協会,
日本航空宇宙学会, 可視化情報学会,
日本流体力学会, 日本フルードパワーシステム学会,
日本トライボロジー学会, 日本原子力学会,
日本混相流学会, 火力原子力発電技術協会,
日本ウォータージェット学会, 日本生体医工学会,
日本金属学会, 日本材料学会, 腐食防食学会,
日本超音波医学会, 日本マリンエンジニアリング学会,
日本ソノケミストリー学会, 非線形音響研究会,
自動車技術会, 日本液体微粒化学会

開会の辞 高木 周 (日本学術会議会員, 東京大学 教授)

特別講演 1 田村 善昭 (東洋大学 教授)
「気泡運動を考慮したキャビテーション
流れ解析手法とその応用」

特別講演 2 祖山 均 (東北大学 教授)
「気液相変化現象を用いた材料の表面力学設計」

特別企画 1. CFD/機械学習とキャビテーション
2. 医療応用

一般セッション

閉会の辞 村井 祐一 (日本学術会議連携会員, 北海道大学 教授)

詳細・参加申込 : <https://wwwr.kanazawa-it.ac.jp/lab/cav22/>

これからのモビリティと社会受容性

自動運転実用化への課題と挑戦

いま、私たちの「移動（モビリティ）」のあり方が大きく変わろうとしています。高齢化の進展や人手不足の深刻化により、地方では公共交通の維持が難しく、都市部でも交通の安全確保や効率化が課題となっています。誰もが安心して自由に移動できる社会をどう実現するかが問われています。

その解決の鍵として期待されているのが「自動運転」です。高齢者や交通弱者の移動を支えるだけでなく、物流や都市インフラの効率化を進め、エネルギーの無駄を減らし、環境負荷の少ない社会づくりにも貢献できる可能性を秘めています。

一方で、安全性や法律、倫理、そして「社会がどう受け入れるか」といった課題も残されています。技術の進歩だけでは、安心して任せられる未来はつくれません。

この講演会では、工学・法学・社会科学など多様な視点から自動運転の現状と展望をわかりやすく紹介し、持続可能で豊かなモビリティ社会の実現に向けて考えます。技術に詳しくない方も大歓迎です。私たちの暮らしの未来を、ぜひ一緒に見つめてみませんか。

2025年12月12日金 13:00~16:40

**東海国立大学機構CommonNexus (名古屋大学)
LOAM HALL**

名古屋市千種区不老町 地下鉄名城線名古屋大学駅 1番出口直通



開会挨拶

名古屋大学総長 杉山 直 (日本学術会議第三部会員)

日本学術会議副会長 三枝 信子 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事)

主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章 (日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久 (愛知教育大学名誉教授、元学長)

●日本学術会議第195回総会を傍聴して

中部地区科学者懇談会愛知県幹事 和田 肇 (名古屋大学名誉教授)

PROGRAM

13:00~13:20

13:20~13:30

13:30~13:40

13:40~16:30

16:30~16:40

ハイブリッド
開催

自動運転の社会実装とELSI

中野 公彦 (東京大学生産技術研究所教授)

※第25期自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会幹事、第25期特任連携会員

ロボットタクシーの社会導入に向けて～自動運転技術の課題と安全性評価に向けた取り組み～

菅沼 直樹 (金沢大学高度モビリティ研究所教授)

自動運転の社会実装のあり方～日米の法制度比較から考える

中川 由賀 (中京大学法学部教授、名古屋大学未来社会創造機構客員教授、弁護士)

モビリティイノベーションがもたらす街と社会へのインパクト

森川 高行 (名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所特任教授・名誉教授、名古屋大学COI-NEXTマイモビリティ共創拠点長・PL)

質疑・まとめ

閉会挨拶

日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 野口 晃弘 (日本学術会議第一部会員、南山大学経営学部経営学科教授)

司会 高田 広章 (日本学術会議中部地区会議代表幹事)

参加希望の方は、2025年12月8日(月)までに下記URLまたはQRコードより事前に申込みをお願いいたします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.office.com/r/jspJrjX2yP>



講師プロフィール



中野 公彦

東京大学生産技術研究所
教授

自動運転の社会実装とELSI

自動運転技術は、交通事故の減少や高齢者の移動手段の確保など、私たちの暮らしに関わる多くの課題を解決することが期待されている。ただし、社会で実際に使われるようにするためには、安全性や信頼性といった技術的な課題だけでなく、ELSI（倫理的・法的・社会的課題）にも対応する必要がある。例えば、事故が起きたときの責任を誰が負うのか、技術の仕組みがどこまで公開されるべきか、利用者のプライバシーをどう守るか、地域の人々にどう受け入れてもらうかなどが重要である。東京大学柏キャンパスと最寄り駅を結ぶシャトルバスでは、2019年から自動運転バス（レベル2）の長期実証運行を行い、ELSIを踏まえた社会実装のあり方を探ってきた。その成果は、日本学術会議による見解「自動運転における倫理・法律・社会的課題」にも反映されている。本講演では、これらの活動を紹介しながら、今後本格化する自動運転の社会実装に向けて考えるべき課題を整理する。

Profile 2000年、東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻博士課程修了。博士（工学）。山口大学工学部、同大学院医学研究科応用医工学専攻を経て、2006年より東京大学生産技術研究所助教授（後に准教授に改称）、2018年より同研究所教授。専門は車両の運動と制御であり、現在は自動運転技術の社会実装に取り組んでいる。



菅沼 直樹

金沢大学高度モビリティ
研究所教授

ロボットタクシーの社会導入に向けて～自動運転技術の課題と安全性評価に向けた取り組み～

金沢大学ではこれまで1998年から25年以上の長きにわたって市街地における自動車の自動運転を実現するための技術を開発してきた。本講演では金沢大学の自動運転技術に関するこれまでの取り組みと、金沢大学の自動運転技術をコア技術としロボットタクシーの社会導入を目指す株式会社ムービーズの取り組み状況について述べる。また自動運転を実現するためには通常のドライバーが行っている認知・予測・判断などの一連の運転動作を、車載センサ、コンピュータ等を用いて実現する必要がある。このため自動運転技術の社会実装に向けて、現状の自動運転の技術的課題や安全性評価に関する取り組みについても述べる。

Profile 2002年金沢大学大学院博士課程修了。博士（工学）。2002年日本学術振興会特別研究員PDを経て、同年金沢大学工学部助手に着任。2021年に金沢大学の全学的な組織として金沢大学 高度モビリティ研究所が新たに発足され、現在 同研究所 副所長を務める。1998年から自動運転自動車の研究を開始し、2015年からは国内の大学として初となる市街地での公道走行実験も開始。2024年に（株）ムービーズを設立し、現在同社の代表取締役を務め、ロボットタクシーの開発及び事業化を推進している。



中川 由賀

中京大学法学部教授
名古屋大学未来社会創造
機構客員教授
弁護士

自動運転の社会実装のあり方～日米の法制度比較から考える

自動運転技術は、交通事故の削減や移動の効率化を通じて、社会の在り方そのものを変革し得る革新的技術である。その社会実装を現実のものとするためには、技術的進歩のみに依拠することはできず、従来の法制度では想定されてこなかった多様な法的課題への対応が不可欠である。特に、自動運転における技術基準の設定、安全性評価の方法、事故調査の方法等については、各国で活発な議論が進められている。本講演では、日本とアメリカの法制度を比較し、自動運転技術の社会実装に向けた法的課題を多角的に検討する。両国の制度設計の相違を手掛かりとして、技術革新と法の調和的発展の方向性を探り、社会的受容性をいかに確立していくかを考察する。

Profile 慶應義塾大学法学部卒業。検事を経て、現在は中京大学教授、名古屋大学客員教授、弁護士。専門は、刑法。2015年から自動運転の法律問題の研究に取り組んでいる。警察庁・国土交通省の委員を務め、自動運転の事故調査や自動運転の社会実装に関する制度設計の議論に携わっている。



森川 高行

名古屋大学未来社会創造
機構モビリティ社会研究所
特任教授・名誉教授
名古屋大学COI-NEXT
マイモビリティ共創拠点長
・PL

モビリティイノベーションがもたらす街と社会へのインパクト

自動運転やライドシェアリングなど、モビリティ（移動）の世界では百年に一度の革命期が訪れている。一方で、日本ではローカル線やバス便の存続問題や職業運転手の不足など公共交通における喫緊の課題も多い。はたしてこれらの課題は完全自動運転車で解決するのか、また完全自動運転車はいつ出現するのかなどの疑問も残る。本講演では、名古屋大学が取り組む先進モビリティに関する大型の研究開発プロジェクトの経験を踏まえつつ、モビリティイノベーションがもたらす街と社会の変化について述べる。

Profile 京都大学工学部卒業、同大学院修士課程修了、マサチューセッツ工科大学（MIT）大学院博士課程修了。京都大学助手、名古屋大学助教授、MIT客員准教授を経て、2000年から名古屋大学大学院教授、2024年から特任教授・名誉教授。2016年から名古屋大学COI研究リーダー、2022年から名古屋大学COI-NEXTプロジェクトリーダー、2023年からSIPスマモビ 名古屋大学コンソーシアム統括責任者。専門は、次世代モビリティ、交通計画、都市計画、消費者行動論。上記の研究プロジェクトにおいて、モビリティ格差の無い街と社会づくりに取り組んでいる。

産官学で推進する地域創生： ブルーカーボンがもたらす可能性

12月13日(土)

陸前高田市コミュニティホール&オンライン

13時30分開会、17時30分閉会

事前申込：<https://forms.gle/heFqbnNbKtjcCGaG7>



参加費無料。ハイブリッド形式です。オンライン参加の方は事前申込が必要です。
会場参加の方は事前申込がなくても会場に直接お越し頂けます。

主催：

日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、
食料科学委員会水産学分科会

共催：

岩手県陸前高田市

後援：

日本農学アカデミー、公益財団法人農学会、公益社団法人日本水産学会、復興農学会
福島大学、東京大学大学院農学生命科学研究科

総合司会

関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授、日本学術会議連携会員)

開会挨拶

中嶋 康博 (女子栄養大学栄養学部教授、日本学術会議会員)

第一部

13:40～

第二部

15:10～

第三部

16:40～

地域創生と
カーボンニュートラル

ブルーカーボン
の科学

産官学で盛り上げる
地域創生

基調講演：

「復興から現在までの振り返りと未来への展望」

佐々木 拓 (陸前高田市長)

「民間企業による持続可能な
地域創生」

金柱 守

(株式会社ニッスイ漁業養殖推進部長)

「海藻養殖による地域創生を
目指した研究推進と産業実装」

佐藤 陽一

(理研食品(株)取締役 原料事業部長)

「海草・海藻藻場による二酸化
炭素貯留機能とコベネフィット」

堀 正和

(水産研究・教育機構沿岸生態系暖流域
グループ長、日本学術会議連携会員)

「バイオミネラリゼーション
と炭素循環」

鈴木 道生

(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

「広田湾における海草類等が
もたらす炭素貯留量」

松政 正俊

(岩手医科大学教養教育センター教授)

パネルディスカッション

モデレーター：

八木 信行

(東京大学大学院農学生命科学研究科教授、
日本学術会議連携会員)

パネリスト：

小山 良太

(福島大学食農学類教授、日本学術会議連携会員)

有働 恵子

(東北大学大学院工学研究科教授、日本学術
会議連携会員)

東海 正

(東京海洋大学名誉教授、日本学術会議連携会員)

閉会挨拶

大越 和加 (東北大学大学院農学研究科教授、日本学術会議会員)

お問い合わせ

<https://forms.gle/ib3dvCbMJpKoTYu26>



日本学術会議 公開シンポジウム

子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための社会の実現について考える
—子どもがまんなかの社会の実現について考える

【開催趣旨】第25期日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会では、2023年に発出した「報告：継続的で包括的な子育て支援の実現に向けて」において、現状の子育て支援が虐待、少子化等の深刻な課題に即した課題解決型の支援にとどまっていることに着目し、すべての家庭のウェルビーイングを向上させることが子育て支援であるとの観点から、乳児家庭全戸訪問事業と「子ども・親・子育て」に関する学びの機会について問題点を明らかにし、今後の子育て支援に生活を総合的に理解する家政学の視点を導入し、支援の継続性及び包括性を高めることが重要であるとの改善の方向性を提案した。

本シンポジウムでは、子育ち・子育て支援の地域での取組の現状と課題、育児経験を通して徐々に親性脳が発達すること、子どもの食との出会いに味覚教育の視点で大人が関わることが有用であること、全ての子どもが学ぶ機会が保障されている家庭科教育における子ども・親・子育てに関する学習と課題について共有し、子どもが安心して育つことのできる社会を実現するための課題について考えたい。

主催:日本学術会議健康・生活科学委員会

　　生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会

共催:生活科学系コンソーシアム

後援:日本生命科学アカデミー

PROGRAM

司会 佐藤 裕紀子(日本学術会議連携会員／茨城大学教育学部教授)

13:00 開会挨拶

　　守隨 香(日本学術会議連携会員／共立女子大学家政学部教授)

13:05 趣旨説明

　　杉山 久仁子(日本学術会議第二部会員／横浜国立大学教育学部教授)

13:20 『人生のスタート期からこどもと家庭を地域で支える取組とその課題』

　　奥山 千鶴子(NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

　　／認定NPO法人びーのびーの理事長)

13:50 『子どもが育つ、親も育つ－「親子セット」で育ちを支える社会の実現を目指して』

　　明和 政子(日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授)

14:20 『子どもの食べる力を引き出す食育(味覚教育)』

　　石井 克枝(千葉大学名誉教授

　　／IDGE(子どものための味覚教育研究会)会長)

14:50 『家庭科教育における「子ども・親・子育て」に関する学習と課題』

　　倉持 清美(東京学芸大学大学院教育学研究科教授)

休憩(10分)

15:30 質疑応答・全体討議

15:55 閉会挨拶

　　宮野 道雄(日本学術会議連携会員

　　／大阪公立大学都市科学・防災研究センター客員教授)

2025年12月14(日)13:00-16:00
オンライン開催

参加申し込み: 12月7日(日)までに、下記URL

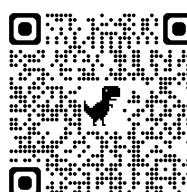
もしくは右のQRコードからお申し込みください。

(申込後確認メールが届きます。)

<https://forms.gle/DuVZhqc3Jp3xyPN47>

問合わせ先: 羽衣国際大学人間生活学部 宮崎 陽子

miyazaki@hagoromo.ac.jp



日本学術会議主催学術フォーラム

環境化学物質の健康影響、

その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて

1. 環境化学物質の健康影響とは

開催
日時

令和7年 12/18(木)
13:30-16:45

開催
場所

日本学術会議講堂および
(東京都港区六本木7-22-34)
ハイブリッド開催

プログラム

総合司会・コーディネーター

中村 桂子 (日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授)

野原 恵子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所 客員研究員・名誉研究員)

13:30 開会挨拶

森口 祐一 (日本学術会議会員 環境学委員会委員長／東京大学名誉教授)

13:35 趣旨説明

野原 恵子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所 客員研究員・名誉研究員)

第1部

セッション1

座長：小椋 康光 (日本学術会議連携会員／千葉大学大学院薬学研究院教授)

13:45 環境化学物質の健康影響リスク評価

青木 康展 (日本学術会議連携会員(特任)／国立研究開発法人国立環境研究所 名誉研究員)

14:20 従来の毒性とシグナル毒性：内分泌かく乱との関係

菅野 純 (日本学術会議連携会員／国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員・名誉職員)

セッション2

座長：鹿嶋 小緒里 (日本学術会議連携会員／広島大学IDECK国際連携機構 プラネットリーヘルスイノベーションサイエンスセンター(PHIS) センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授)

14:55 環境化学物質の多世代・継世代影響

野原 恵子 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所 客員研究員・名誉研究員)

15:30 オルガノイド技術を用いた環境化学物質の影響評価

戸塚 ゆ加里 (星薬科大学衛生化学研究室 教授)

休憩

第2部

16:20 総合討論

座長：渡辺 知保 (日本学術会議連携会員／長崎大学大学院プラネットリーヘルス学環教授)

パネリスト：青木 康展、菅野 純、野原 恵子、戸塚 ゆ加里

16:40 閉会挨拶

中村 桂子 (日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授)

16:45 閉会

環境中に放出される化学物質は人間活動の増大に伴って増加し、その中にはヒトや生態系に悪影響を及ぼす可能性をもつものもあります。環境化学物質の悪影響から将来にわたって人類の健康を守るためにには多岐にわたる研究が必要です。本フォーラムでは、環境化学物質の健康影響に関する研究を議論します。

参加費無料

どなたでもご参加いただけます。

お申し込み方法



要事前参加登録

右のQRコードまたは
下記URLからご登録をお願いします。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0335.html>

申し込み締切 12月15日(月)

主催 日本学術会議

後援 国立医薬品食品衛生研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、一般社団法人 日本衛生学会、一般社団法人 日本環境化学会、一般社団法人 日本公衆衛生学会、一般社団法人 日本毒性学会、日本内分泌搅乱物質学会、日本免疫毒性学会、一般社団法人日本DOHaD学会

問い合わせ

日本学術会議事務局企画課
学術フォーラム担当
TEL 03-3403-6295



市民公開講座

ゲノム情報・医療情報・ 生体試料の共有を巡って —展望と課題—

2025 12/20(土)15:30-17:30

ゲノムオミクス情報を含む医療情報の利活用を促進する法律も制定され、ゲノム医療が進められようとしている。ゲノム情報や試料の重要性に鑑み、その共有や利活用の推進に関して人権の観点から配慮すべき点も含め、展望と課題を検討する。



ハイブリッド開催（対面+Zoom）

対面：パシフィコ横浜会議センター 5F 503



無料（要申込み）



以下のURLまたはQRコードからお申し込み下さい

https://www.entry-sys.net/form/jshg2025/jshg2025_fm7_14/



プログラム

15:30	挨拶・座長 徳永 勝士(日本学術会議連携会員、国立国際医療研究所プロジェクト長) 伊藤 隆司(日本学術会議連携会員、九州大学特任教授)
15:35	ヒト疾患バイオバンクの成り立ちと医学・医療への貢献 後藤 雄一(国立精神・神経医療研究センター理事長補佐)
15:56	ゲノム情報は医療や健康管理にどのように役立ちますか？ 平沢 晃(日本学術会議連携会員、岡山大学医学部教授)
16:17	個人情報保護法とデータ利活用 宍戸 常寿(東京大学法学部教授)
16:38	ゲノム(遺伝)情報の利活用における「個人の尊重」：欧州におけるゲノム情報保護制度を例に 建石 真公子(日本学術会議連携会員、法政大学名誉教授)
16:59	諸外国における個人ゲノム情報利活用の現状 有田 正規(日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所教授)
17:20	総合討論（17:30終了予定）

【主催】日本学術会議 統合生物学委員会・基礎生物学委員会・基礎医学委員会合同 「ゲノム科学分科会」
臨床医学委員会「臨床ゲノム医学分科会」

【共催】日本人類遺伝学会

【後援】DNA Data Bank of Japan、令和7年度厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業「ゲノム情報に応じたがん予防にかかる指針の策定と遺伝性腫瘍に関する医療・社会体制の整備および国民の理解と参画に関する研究」、科学研究費学術変革領域研究A「各国憲法や各国生命倫理法等の比較に基づく尊厳概念の法的分析」



日本学術会議主催学術フォーラム



ケアの多様性・包摶性・公平性・持続可能性

令和7年

12月21日(日) 13:00 ~ 16:00

会場

日本学術会議講堂
ハイブリッド開催

参加費無料



少子高齢・人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根柢を解明するだけでなく、多くの学問分野の連携のもと、あらゆる市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉とケアを核とする社会モデルのあり方を模索し、共につくり上げていく学術と教育が連動する活動を意味する。この活動を通して、人々の暮らしにケアサイエンスとその成果を根づかせることで実現する相互支援社会を「ケア共同社会」と呼び、その構築を目指として掲げている。

本フォーラムは、誰もがケアし、ケアされるケア共同社会の実現に向けて、1)ケアサイエンスとケアの担い手について、2)ケア・イノベーションについて、3)ケアのあり方について、をそれぞれのテーマとする3回のシリーズの第3回目にあたる。これらの連続シンポジウム及び学術フォーラムにより、人間にとってケアをする/されることの意味やケアの双方向性・重層性など多方面からの考察を行い、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探る。そして、関連する学問分野や実践活動の担い手、制度の担い手など多様な関連主体がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すこと目的とする。

シリーズの第3回目となる本フォーラムでは、「ケアをめぐる格差と持続可能性」を主題とし、ケアの担い手と受け手の間に存在する様々な不均衡に焦点を当てる。第一部では、エスニシティ、ジェンダー、ヤングケアラーといった観点から、誰がケアを担わされているのかという役割配分の格差を考察する。第二部では、地域的条件や障害特性によって生じるケアへのアクセス格差が、当事者や家族の生活に及ぼす影響について検討する。第三部では、ケアを受けながら働くことの困難や、支援者自身の支援の必要性といった、ケアの持続可能性に関わる課題を取り上げる。総合討論では、参加者との質疑応答も積極的に行う。

本フォーラムを通じて、誰もが「ケアすること・ケアされること」を肯定的に引き受けながら生きられる社会=ケア共同社会の実現に向け、制度、実践、価値観の再構築を目指すものである。

お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0347.html>

申込締切 12月16日(火) 事前参加登録をお願いします。



主催

日本学術会議

後援

- 一般社団法人 日本看護系学会協議会
- 公益社団法人日本看護科学学会
- 一般社団法人日本建築学会
- 障害学会
- 人間・環境学会
- 一般社団法人日本医療・病院管理学会
- 一般社団法人日本サイコオンコロジー学会
- 日本老年学会

一般社団法人日本社会福祉学会

一般社団法人日本癌治療学会

一般社団法人日本がんサポートイブケア学会

公益社団法人こども環境学会

認定特定非営利活動法人ささえあい医療人権センターCOML

当事者研究ネットワーク

特定非営利活動法人DPI日本会議

非営利活動法人ALS/MNDサポートセンターさくら会

司会 熊谷 晋一郎	(日本学術会議第二部会員、東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授)
副司会 山川 みやえ	(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護 科学分野老年看護学准教授)

スケジュール

13:00～13:05	冒頭アナウンス	熊谷 晋一郎	(日本学術会議第二部会員、東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授)
13:05～13:10	開会挨拶	磯 博康	(日本学術会議第二部会員、日本学術会議副会長、国立健康危機管理研究機構国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐)
13:10～13:55	第一部 ケア役割の配分における格差		
13:10～13:25	話題提供1 エスニシティ・ナショナリティ：途上国のケア労働力の搾取	森山 美知子	(日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医系科学研究科教授)
13:25～13:40	話題提供2 ジェンダー：子育てと仕事の両立、老々介護のジェンダー差	臼井 恵美子	(日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授)
13:40～13:55	話題提供3 ヤングケアラー	門田 行史	(自治医科大学ヘルスエクイティ地域共創センター副センター長)
13:55～14:25	第二部 ケアへのアクセシビリティの格差		
13:55～14:10	話題提供1 地理的要素：ケアの地域格差：ケアニーズの高さとケアアクセシビリティの関係の修飾要因	佐藤 栄治	(宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科建築計画研究室教授)
14:10～14:25	話題提供2 強度行動障害のある人々の生活	日詰 正文	(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部部長)
14:25～14:40	休憩		
14:40～15:10	第三部 持続可能なケアに向けた課題		
14:40～14:55	話題提供1 生産活動と再生産活動の分離：ケアを受けながら働くこと	岩岡 美咲	(一般社団法人わをん理事 頸髄損傷当事者)
14:55～15:10	話題提供2 支援者支援	大江 美佐里	(日本学術会議連携会員、久留米大学保健管理センター准教授)
総合討論			
15:10～15:50	司会	山川 みやえ	(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学系研究科統合保健看護科学分野老年看護学准教授)
	パネラー	森山 美知子	(日本学術会議第二部会員、広島大学大学院医系科学研究科教授)
		臼井 恵美子	(日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授)
		門田 行史	(自治医科大学ヘルスエクイティ地域共創センター副センター長)
		佐藤 栄治	(宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科建築計画研究室教授)
		日詰 正文	(独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部部長)
		岩岡 美咲	(一般社団法人わをん理事 頸髄損傷当事者)
15:50～16:00	まとめ	大江 美佐里	(日本学術会議連携会員、久留米大学保健管理センター准教授)
16:00	閉会	西村 ユミ	(日本学術会議第二部会員、東京都立大学副学長)

地球再興を見据えた新材料デザイン

日本学術会議
公開シンポジウム2025
2025 12/23 Tue.
13:00 - 17:00

日本学術会議・講堂

東京都港区六本木7-22-34

ハイブリッド開催、参加費無料
オンライン参加申込はこちらから



プログラム

1. 開会挨拶・趣旨説明

中野 貴由
(日本学術会議第三部会員、新材料デザイン分科会委員長、大阪大学大学院工学研究科教授)

2. 地球再興を見据えた新材料・新プロセスへの挑戦

司会：松本 卓也

(日本学術会議連携会員、岡山大学学術研究院医歯薬学域教授)

「材料組織生成AIとエージェントAIによる新材料デザイン」 小山 敏幸

(日本学術会議連携会員、物質・材料研究機構、構造材料研究センター、グループリーダー)

「地球再興を見据えた水素利活用のための新材料開発」 高村 仁

(日本学術会議連携会員、東北大学大学院工学研究科教授)

「地球再興を見据えた新素材形材プロセス開発への挑戦」 尾崎 由紀子

(日本学術会議第三部会員、九州大学大学院工学府非常勤講師／大阪大学接合科学研究所招へい教授)

3. 地球再興を見据えた材料工学の未来戦略

司会：三浦 誠司

(日本学術会議連携会員、北海道大学大学院工学研究院教授)

「鉄鋼業界からみた新材料工学への期待」 河野 佳織

(日本学術会議連携会員、日本製鉄株式会社フェロー)

「データ駆動型研究によるマテリアルイノベーション」 檻 学

(日本学術会議連携会員、東京工科大学片柳研究所教授)

「磁性材料研究からみる未来戦略」 梅津 理恵

(日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授)

4. 閉会挨拶

岸本 康夫

(日本学術会議第三部会員(材料工学委員会委員長)、JFEスチール研究技監)

後援 公益社団法人日本金属学会／公益社団法人日本セラミックス協会／公益社団法人高分子学会／
公益社団法人日本表面真空学会／一般社団法人日本MRS／一般社団法人日本鉄鋼協会／
一般社団法人軽金属学会／一般社団法人日本AM学会／一般社団法人粉体粉末冶金協会／
一般社団法人スマートプロセス学会／一般社団法人日本歯科理工学会／
日本チタン学会／日本バイオマテリアル学会